

反動もあって、総額126億円(うち第1部114億円)とやや増加が見込まれるものの、その水準は前年同月(144億円)および1～3月平均(145億円)に及ばず、総じて増資意欲は依然低調である。

次に起債動向をみると、3月の起債(純増ベース、金融債、国債を除く)は、578億円と前月を15億円上回った。これは、政保債が年度枠の残額を一挙に消化する関係から著増したためで、一般事業債は一部大型起債の繰延べもあって大幅に減少し、電力債も買入消却の増加から若干減少したほか、地方債もほぼ横ばいにとどまった。一方、長期国債の発行は、自然増収が相当多額に達したことから、当初の民間引受け予定額400億円を350億円削減して50億円とし(全額証券会社引受け)、また運用部引受け予定額300億円については全額発行を取りやめた。これらの消化状況を見ると、地方債消化の足取りは引き続き重かったが、前月

一部でややもたつた事業債の消化については、当月の起債額が少なかったこともあって、まずまずの足取りであった。一方、国債の証券会社扱い一般募集分は、取扱額が例月の3分の2程度であったため、締切日までにはほぼ全額消化を達成した。また、金融債(純増額)は例年期末時にみられる金融機関のスポット買いもあり、売行きは前月を上回ったが、一部発行銀行が債券発行限度枠との関係から発行額の一部を4月1日発行として経理したため、表面では、前月を下回った。

## 実体経済の動向

### ◇需要は拡大基調を持續

最近の経済指標の動きには多少のフレがみられるものの、総じてみると経済活動は、需要の根強い増加にささえられて、相当なテンポで拡大を続けている。すなわち、2月に一時落ち込んだ生産は3月には再び増加し、1～3月の前期比伸び率は+4.4%と昨年10～12月並みの増勢を示している。また、出荷も1～3月には、+4.5%と10～12月(+5.5%)に比べ拡大テンポはいくぶん鈍ったものの、生産とほぼ同程度の増加を示している。この結果、年度平均の伸び率は、生産+15.7%、出荷+15.1%と前回景気上昇期の38年度の伸び率(生産+15.3%、出荷+13.7%)を上回る高率となっており、これを上・下期に分けると、下期の伸び率は上期よりいくぶん高くなっている。

最近における需要面の動向をみると、輸出は内需の増大や米国をはじめとする海外輸出環境の不ぞえから、ひとところに比べその増勢は鈍化しており、また官公需も景気支持要因としての役割は上期に比べ後退しているが、一方民間需は民間設備投資を中核として、かなりのテンポで拡大を続け、最近における需要増加の中心的な役割を演じている。すなわち、民間設備投資は、一般資本財出荷(41年10～12月+8.7%、42年1～3月+5.8%)や、機械受注(海運を除く民間、41年10～12月

### 起債状況

(単位・億円、カッコ内純増ベース)

	42年			42年	41年	40年度	41年度
	2月	3月	前月比	4月 (見込み)	4月		
合計	865 (563)	905 (578)	40 (51)	740 (470)	677 (423)	7,542 (5,367)	9,234 (5,983)
事業債	384 (182)	347 (111)	△37 (△35)	323 (138)	331 (153)	3,914 (2,362)	4,159 (1,891)
一般	283 (154)	223 (87)	△60 (△67)	183 (75)	188 (84)	2,436 (1,512)	2,497 (1,021)
電力	102 (29)	124 (25)	22 (31)	140 (63)	143 (69)	1,478 (850)	1,662 (870)
地方債	62 (44)	64 (43)	2 (△1)	65 (43)	56 (35)	618 (408)	727 (480)
政保債	418 (337)	494 (424)	493 (424)	352 (289)	290 (236)	3,010 (2,597)	4,349 (3,612)
金融債	1,460 (507)	1,549 (487)	89 (△20)	1,724 (721)	1,266 (434)	14,368 (5,822)	17,323 (5,913)
利付	651 (359)	750 (361)	99 (2)	810 (518)	554 (310)	6,455 (4,213)	7,799 (4,301)
割引	809 (148)	799 (125)	△10 (△23)	914 (202)	712 (123)	7,913 (1,609)	9,524 (1,611)
新規長期国債	200	50	△150	1,400	1,400	2,000	6,750
証券会社引受分	78	50	△28	64	67	139	836

+22.7%、42年1～3月+21.3%)などの設備投資関連指標が、基調として根強い増加を示していることなどからみて、相当なテンポで拡大を続けているものとみられる。また、民間在庫投資も、すでに仕掛品在庫や原材料在庫が増加傾向にあるうえ、流通在庫や製品在庫にもようやく増加に向かう気配がうかがわれるなど、全体としてこのところやや増勢を示しつつあるように思われる。さらに個人消費も、百貨店売上げが順調な伸びを示していることや銀行券発行高が根強い増勢を続けていることなどから推して、依然堅調な足取りをたどっているものとみられる。

なお、この間、生産増大の背景にある生産能力と稼働率の状況を見ると、まず生産能力は増設設備の相次ぐ完成などから、このところ次第に増勢を強めており(たとえば、生産能力指数をみると、前期比で41年7～9月+1.8%、10～12月+2.4%、42年1～3月+3.2%)、とくに鉄鋼、非鉄、機械、化学などでは能力の増加がかなり目立っている模様である。また、すでに相当高水準に達している操業度についても、機械、非鉄、化学をはじめほとんど全業種にわたって、なお一段と高まる傾向がうかがわれ、フル操業の域に達しているものも少なくないとみられる(稼働率指数は前期比41年7～9月+4.1%、10～12月+1.5%、42年1～3月+3.2%)。

#### (生産——根強い増勢を持続)

2月の鉱工業生産(季節変動調整済み)は、1月の大幅増加(前月比+2.6%)のあと、前月比-1.6%と12か月ぶりの減少となった。もっとも、これには①建国記念日の創設に伴う生産日数減、②前月増勢が目立った鉄道車両、運搬機械、金属加工機械、土木建設鉱山機械等の反動減、などの特殊事情がかなり響いており、これまでの増加基調に格別の変化が生じたとはみられない。2月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財(-4.4%)は、金属加工機械の著減をはじめ、土木建設鉱山機械、化学機械、運搬機械、電動機器等の減産により、また耐久消費財(-4.5%)は家庭用電機、自動二

輪車を中心にそれぞれ大幅な減少を示した。このほか、これまで一貫して根強い増勢を続けてきた生産財も、鋼材、機械部品等を中心に-0.5%と微減し、非耐久消費財も繊維製品を中心に-2.8%とかなり減少した。他方、資本財輸送機械は、鉄道車両の反動減にもかかわらず乗用車、トラック(とくに三輪トラックの増加が顕著)等の増産にささえられて、+1.9%と増勢を続けた。

3月の鉱工業生産(季節変動調整済み、速報)は、前月減少(-1.6%)のあと+2.6%と再びかなりの増加を示した。この結果、1～3月の生産は前期比で+4.4%と昨年10～12月とほぼ同程度の増加となった(41年4～6月+4.2%、7～9月+5.7%、10～12月+4.5%)。3月の動きを特殊分類別にみると、各財とも増加したが、とくに一般資本財は前月著減を示した金属加工機械、運搬機械、化学機械の反動増や電力向け大型機械、繊維機械、印刷機械等の増加から、前月比+7.9%と著増したのが目立った。また、耐久消費財(+2.3%)は輸送機械、家庭用電機を中心に、資本財輸送機械(+1.8%)も乗用車、小型トラック、鉄道車両を中心に、それぞれかなりの増加を示し、生産財も鉄鉄、粗鋼、非鉄地金、石油化学製品を中心に再

### 鉱工業生産の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年				42年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	1月	2月	3月
鉱 指 数	189.3	200.0	209.0	218.1	218.6	215.1	220.6
工 前期(月)比	4.2	5.7	4.5	4.4	2.6	-1.6	2.6
業 前年同期(月)比	9.1	14.3	19.3	20.0	20.4	19.5	20.2
投 資 財	3.2	5.8	5.5	8.4	4.4	-0.8	4.0
資 本 財	2.5	6.3	6.3	10.0	5.7	-1.7	4.8
同 (輸送機械を除く)	5.4	2.9	8.6	5.6	-0.7	-4.4	7.9
輸 送 機 械	-1.1	12.1	2.8	14.4	13.0	1.9	1.8
建 設 資 材	4.4	5.7	2.5	3.2	0.6	-0.6	0.7
消 費 財	1.3	3.4	3.7	-1.7	-1.1	-3.4	2.1
耐 久 消 費 財	2.7	7.5	6.1	4.6	3.4	-4.5	2.3
非 耐 久 消 費 財	1.6	1.5	2.7	-4.4	-2.9	-2.8	1.6
生 産 財	5.5	5.7	4.6	5.6	3.1	-0.5	1.9

(注) 通産省調べ、42年3月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

び相当の増加となった。このほか、非耐久消費財は、医薬品、写真感光材料等を中心に+1.6%と4か月ぶりに増加し、建設資材も亜鉛鉄板、セメントの増加から+0.7%と小幅ながら増勢を続けた。

(出荷—引き続き増加基調)

2月の鉱工業出荷(季節変動調整済み)は、前月著増(+4.0%)のあと、前月比-1.9%と12か月ぶりでかなりの減少を示したが、これも生産とほぼ同様の理由によるもので、ここにきて出荷の増加基調に格別の変化が生じたとはみられない。ちなみに、最近の動きを3か月移動平均によってならしてみると、11月+1.8%、12月+2.3%、1月+1.1%と根強い増勢を続けている。2月の動きを特殊分類別にみると、建設資材が保合ったほかは各財とも減少し、なかでも一般資本財は金属加工機械、土木建設鉱山機械、化学機械、運搬機械等の反動減を中心に、また資本財輸送機械も鉄道車両、鋼船の減少が響いて、それぞれ-2.8%とかなりの減少を示した。また耐久消費財(-2.0%)は家庭用電機を中心に、非耐久消費財(-1.3%)は繊維二次製品を中心に、それぞれ引き続き減少し、生産財(-1.1%)も鋼材、石油製品、工具類、

機械部品等の減少から、1年5か月ぶりに減少した。

3月の鉱工業出荷(季節変動調整済み、速報)は生産と同様に、前月減少のあと+1.2%と再び上昇した。この結果、1~3月では前期比+4.5%と依然として相当な増加となった(41年4~6月+4.8%、7~9月+2.5%、10~12月+5.5%)。3月の動きを特殊分類別にみると、耐久消費財が著減したほかは各財とも軒並み増加した。すなわち、一般資本財は、前月減少の目立った金属加工機械、運搬機械の著増をはじめ、繊維機械、化学機械、工具類、発送配電機器、普通鋼鋼管等の大幅増加から前月比+5.8%と著増し、資本財輸送機械も乗用車、全輪駆動車、鉄道車両の増加から+3.2%と大幅増加を示した。このほか、非耐久消費財は医薬品、石けん、たばこ等を中心に+1.1%の増加を示し、生産財、建設資材もそれぞれ若干ながら増加した。この間、耐久消費財のみは家庭用電機が夏物の在庫積み増しなどから著減したほか、精密機械もカメラの売れ行き不振などを映じて大幅な減少を示したため、前月比-7.9%と著減した。

(在庫—製品在庫はようやく下げ止まり気配、販売業者在庫もこのところ増加きみ)

鉱工業製品在庫(季節変動調整済み)は、1月に久方ぶりで増加したあと、2月は-0.6%と再び微減した。もっとも、最近の動きを3か月移動平均によってならしてみると、11月-0.7%、12月-0.1%、1月-0.3%と大勢横ばい基調で推移している。

2月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財は金属工作機械、鉄鋼用ロール、エアコンディショナー、通信ケーブル等を中心に-3.0%と減少し、非耐久消費財も、繊維製品(染色整理段階の綿・スフ・合繊維物)、化学製品(印刷インキ等)、くつ、はきものを中心に-2.9%と引き続きかなりの減少を示した。一方資本財輸送機械は、乗用車、全輪駆動車、トラック、三輪トラックを中心に+3.1%とかなり増加し、耐久消費財も冷蔵

鉱工業出荷の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

鉱工業	指数	41年				42年		
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
		187.8	192.6	203.1	212.3	214.1	210.1	212.7
工	前期(月)比	4.8	2.5	5.5	4.5	4.0	-1.9	1.2
業	前年同期(月)比	11.7	12.3	17.8	18.4	18.4	18.1	18.7
投資財		3.6	-0.6	9.1	9.1	7.8	-2.0	3.3
資本財		3.3	-2.0	11.1	11.6	10.3	-2.7	4.1
同	(輸送機械を除く)	6.1	1.3	8.7	5.8	-0.3	-2.8	5.8
輸送機械		0.3	-3.8	10.5	19.1	21.2	-2.8	3.2
建設資材		3.9	3.8	3.9	1.4	0.3	0	0.5
消費財		4.2	2.0	3.2	-1.5	-1.3	-1.6	-1.1
耐久消費財		11.8	6.1	3.5	-3.9	-2.9	-2.0	-7.9
非耐久消費財		1.9	0.8	3.0	-0.4	-0.6	-1.3	1.1
生産財		6.2	4.8	4.1	5.0	3.6	-1.1	0.9

(注) 通産省調べ、42年3月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

庫、扇風機など夏物家庭用電機の在庫備蓄により+2.3%の増加となった。このほか生産財(+0.9%)は鋼材の増加を主因に、建設資材(+0.7%)はセメント、亜鉛鉄板等の増加から、それぞれ微増した。

以上のように、出荷がかなり減少した反面、在庫は微減にとどまったため、2月の製品在庫率は前月比+1.4%(在庫率指数105.0)と11か月ぶりに上昇した。特殊分類別には、一般資本財と非耐久消費財が低下したほかは各財とも上昇し、また業種別には、鉄鋼、電気機械などの上昇が目立った。

3月の鉱工業製品在庫(季節変動調整済み、速報)は、前月微減のあと+1.6%とかなりの増加を示し、前四半期末との対比でも+1.8%の増加となった(前四半期末比、41年6月-3.3%、9月+1.5%、12月-2.0%)。3月の動きを特殊分類別にみると、家庭用電機が夏物の備蓄や減り過ぎていた品目の補充などから著増したほか、自転車、軽自動車、カメラ等もかなり増加したため、耐久消費財は+11.4%と著増し、資本財輸送機械もトラック、バス、軽オートバイを中心に+3.5%と

大幅に増加した。また、生産財(+1.6%)は非鉄地金、鉄鋼、機械を中心にかなりの増加を示し、建設資材(+0.1%)も亜鉛鉄板の増加が響いて微増した。他方、一般資本財は金属加工機械、風水力機械、土木建設鉱山機械等を中心に-2.9%とかなり減少し、非耐久消費財も繊維製品の減少から微減した。

製品在庫率は、2月に+1.4%と久方ぶりで上昇したあと、3月は以上のような出荷在庫の動きを映じて、+0.4%(在庫率105.4)と小幅ながら引き続き上昇し、ようやく下げ止まる気配をみせている。

メーカー原材料在庫(季節変動調整済み)は、1月に前月比+1.3%と増加したあと、2月(速報)も+1.3%と引き続き増加した。最近の動きを3か月移動平均によってならしめても、11月+0.8%、12月+1.2%、1月+0.9%とゆるやかな上昇傾向を継続している。これは、生産の急テンポの上昇が続き、一般に在庫水準がかなり低目となっているため、輸入素原材料を中心に在庫補充を進めようとする動きが生じたことの反映とみられる。

2月の動きを財別にみると、輸入素原材料は、石油、非鉄鉱石(銅、鉛、亜鉛)、原綿、原毛、工

### 鉱工業製品在庫の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年			42年	42年		
	6月	9月	12月	3月	1月	2月	3月
鉱工業	221.4	224.8	220.3	224.2	221.9	220.6	224.2
指 数							
前期(月)比	-3.3	1.5	-2.0	1.8	0.7	-0.6	1.6
前年同期(月)比	-0.5	-2.9	-2.4	-2.1	-1.3	-1.4	-2.1
業	116.7	115.0	107.0	105.4	103.6	105.0	105.4
製品在庫率指							
投資財	-4.5	7.3	-2.8	0	1.8	-0.8	-1.0
資本財	-5.0	9.2	-2.7	-1.5	1.5	-1.1	-1.9
同(輸送機械を除く)	-7.4	3.7	1.2	-4.9	1.0	-3.0	-2.9
輸送機械	-1.9	29.3	-9.8	9.6	2.7	3.1	3.5
建設資材	-3.0	3.6	-3.8	3.6	2.8	0.7	0.1
消費財	-4.7	-0.2	-1.0	4.7	2.4	-0.8	3.1
耐久消費財	-9.8	-3.4	0.6	22.1	7.2	2.3	11.4
非耐久消費財	-3.1	2.3	1.8	-5.1	-1.4	-2.9	-0.8
生産財	-1.2	-0.2	-4.0	1.9	-0.6	0.9	1.6

(注) 通産省調べ、42年3月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

### 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節変動調整済み)

	41年			42年		
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
在庫指数	130.5	131.7	134.8	134.8	136.6	138.4
前期(月)末比	2.2	0.9	2.4	0	1.3	1.3
素原材料	6.3	-2.2	1.7	0.9	-0.4	2.1
うち輸入分	8.8	0	5.1	2.5	-1.1	2.4
製品原材料	0.6	3.7	3.0	-1.1	2.9	0.6
うち国産分	0.3	3.5	3.5	-0.9	3.0	0.6
在庫率指数	73.2	69.3	66.8	66.8	65.7	67.3
素原材料	72.9	68.2	65.5	65.5	63.1	65.1
うち輸入分	71.2	68.0	66.3	66.3	64.1	66.3
製品原材料	76.6	73.4	70.6	70.6	71.3	72.6
うち国産分	76.2	72.8	70.3	70.3	71.1	72.5

(注) 通産省調べ、42年2月は暫定。  
前期(月)末比増減率(%)。

業塩等を中心に+2.4%と再びかなりの増加を示した。また、国産製品原材料も鋼材が前月の反動から若干減少したものの、化学工業の中間製品、染色整理段階の織物等の増加から、全体では+0.6%の増加となり、国産素原材料もパルプ用材、非鉄くず等を中心に+0.2%と引き続き微増した。

他方、これまで根強い増勢を続けてきた原材料消費(季節変動調整済み)は、2月(速報)には生産が一時的にやや落ち込んだこともあって、前月比-1.2%と1年ぶりに減少した。これを業種別にみると、鉄鋼、石油、皮革等は増加したが、機械、繊維(繊維二次製品)、窯業、石炭製品等はいずれも相当の減少となった。以上のような在庫、消費の動きを映じて、原材料在庫率は前月比+2.4%(67.3)と11ヵ月ぶりにかんがりの上昇となった。

次に、販売業者在庫(季節変動調整済み)は、11月、12月と2ヵ月続いで減少したあと、1月(速報)は+3.7%と大幅に増加した。最近の動きを3ヵ月移動平均によってならしてみると、10月+0.5%、11月-0.4%、12月+0.5%と大勢横ばいのうちにもいくぶん増加がみとなっている。1月の動きを財別にみると、昨年10月来減勢を続けてきた製品では、鋼材が目立って増加した(+7.3%)ほか、自動車や糸、織物等の繊維製品もかなりの増加を示したため、全体として前月比+4.1%と大幅に増加した。また、素原材料もここ数ヵ月来の増加テンポには及ばないが、原綿等繊維原料の増加が響いて、前月比+1.7%と引き続き増加し

### 販売業者在庫の推移

(季節変動調整済み)

	41年			42年		
	6月	9月	12月	11月	12月	1月
総合指数	197.1	200.3	197.6	199.2	197.6	204.9
前期(月)末比	-4.3	1.6	-1.3	-1.4	-0.8	3.7
素原材料	5.9	6.9	16.1	3.7	10.6	1.7
製品	-5.0	1.0	-4.7	-2.1	-2.1	4.1

(注) 通産省調べ、前期(月)末比増減率(%)。

た。

### (設備投資——根強い増勢続く)

設備投資関連指標の動きをみると、まず一般資本財出荷(季節変動調整済み)は、前期比で41年7~9月+1.3%、10~12月+8.7%、42年1~3月+5.8%と、依然として根強い増加を続けている。

一方、設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節変動調整済み)の動きをみると、3月には前月比-25.7%と大幅に落ち込んだが、これには景気好転に伴ってメーカーが期末のかさ上げ受注をとくに行なわなかったこともかなり響いているとみられ、これまでの増加基調に格別の変化が生じたとは考えられない。ちなみに、四半期別の動きをみると、前期比で41年7~9月+11.6%、10~12月+22.7%のあと、42年1~3月も+21.3%と増加を続けている。また、同じく先行指標である建設工事受注高の推移をみても、前年同期(月)比で41年7~9月+1.7%のあと、10~12月+42.1%、42年1~3月+41.7%と大幅な増加を続けており、とくに3月(速報)は+46.6%と顕著な増加を示している。

こうした設備投資関連指標の動きや、最近相次いで発表された各種の設備投資予測調査の結果などからみて、設備投資は引き続き相当のテンポで

### 需要先別機械受注の推移

(季節変動調整済み、月平均、単位・億円)

	41年		42年	42年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
民需	845	989	1,210	1,240	1,281	1,110
(同(除海運))	(17.7)	(17.0)	(22.4)	(4.9)	(3.3)	(-13.3)
製造業	729	895	1,086	1,208	1,177	874
(同(除海運))	(11.6)	(22.7)	(21.3)	(10.4)	(-2.6)	(-25.7)
非製造業	346	532	651	721	746	486
(同(除海運))	(-2.2)	(53.8)	(22.3)	(1.2)	(3.4)	(-34.9)
非製造業	503	462	546	497	511	631
(同(除海運))	(35.3)	(-8.2)	(18.1)	(5.4)	(2.7)	(23.4)
同(除海運)	386	365	431	469	433	391
(同(除海運))	(25.1)	(-5.3)	(18.0)	(22.4)	(-7.7)	(-9.5)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

増加しており、今後も根強い増加基調を続けるものと思われる。

#### ◇商品市況はひとところに比べ堅調さやや薄らぐ

3月から4月前半にかけての商品市況をみると、綿糸が一時訂正安を示したものの再び反騰を示し、生糸、スフ糸、セメント、基礎薬品類、洋紙も引き続き強含みで推移、またこれまで軟調を続けてきた砂糖も久方ぶりにかなりの上伸を示した。しかし、反面、鉄鋼では鋼板類、条鋼類ともかなり急テンポで軟化したのをはじめ、非鉄も大幅な下落を示し、また、製材、重油、合成樹脂も弱含みとなった。このように商品によって区々な動きをみせつつも、このところ軟化を示す商品がやや目立っており、総じてみると、市況の地合いはひとところのような堅調さがやや薄らいできているように思われる。

こうした動きの背景には、非鉄(銅)における海外相場の急落、鉄鋼における市場人気の冷却などの特殊事情も指摘できるが、一般にこれまでの相次ぐ増産や輸入玉の入着に加え、新規設備の稼働に伴う供給力の増加予想などもあって、需給の引き締め感がひとところに比べやや弱まっていることも一因として見のがせない。たとえば、鉄鋼、非鉄、セメント等では、一時相当低水準に落ち込んでいたメーカー在庫をいくぶん積み増せる程度にまで需給関係が緩和されつつあるようで、これが市況の地合いをやや弱いものにしていくといえよう。この間、綿糸は依然として需給引き締め状態が続き、相場も期近物を中心に堅調な動きを示しているが、カルテル撤廃に伴う増産効果が市況面に多少とも影響を及ぼすのではないかとみられている。このように、市況はひとところに比べ堅調さがいくぶん薄らぎつつあるものの、需要が引き続きかなり高いテンポで拡大を続けているため、総じてみると、市況の地合いにはなお底堅いものがうかがわれる。現に、4月下旬には鉄鋼の下げ足が鈍り、一部に底値感も芽ばえつつあるのはこのような基調の一端を物語るものといえよう。

次に商品別の動きをやや詳しくみると、まず鉄

鋼は、鋼板類、条鋼類とも、再びかなり急テンポで軟化を続けた。これは、メーカー、ディーラー段階で在庫がかなり増加していることや、大手メーカーの市中店売りの積極化(鋼板類)、緊急輸入玉の入着(条鋼類)などの事情が弱気ムードを誘っていることによるものとみられ、需要家がきびしい指値態度を続けている一方、特約店筋では一部に換金投げも散見されるなど、その売腰は著しく弱まっている。もっとも、相場水準がこのところかなり低くなってきているだけに、条鋼類については4月後半に至りさすがに底値感も台頭しつつある。繊維では、人絹糸が需給の引きゆるみからかなり軟化したものの、綿糸は3月後半に一時訂正安を示したあと、4月にはいるや早くも反発商状を呈し、また、生糸、スフ糸も底堅い動きを続けた。綿糸については、不況カルテル撤廃による生産増、織物輸出成約の不振など先行き需給緩和要因もあるが、当面の需給引き締め状態がささえとなって依然根強い人気が続いている。非鉄では、銅が海外相場の急落や、国内の需給状況がいくぶん緩和に向かうメドがついたことなどから、かなりの値下がりを示し、また鉛、亜鉛も、供給増加と需要家の買控えから引き続きジリ安となった。

次に、石油では、揮発油、灯油などは底堅い動きを続けたが、重油は販売競争の激化から小幅軟化を示した。セメントは、生産水準が漸次上昇しているうえ、官公需がこのところ一服きみとなっていることなどから、ひとところほどの荷練り難はみられないが、民間設備投資を背景に出荷が伸びていることや、春闘ストによる減産懸念から、引き続き強含みに推移した。また、昨年夏以来一貫して上昇を続けてきた木材は、このところ官公需が頭打ちとなっているうえ、産地雪解けに伴う市場への入荷円滑化もあって、間屋筋で荷もたれ感が台頭し、製材を中心に久方ぶりに軟化を示した。化学では、基礎薬品類は、関連業界からの需要増を背景に総じて需給の引き締め状態が続いており、相場も塩酸、カーバイドなどを中心に強

含みを続けた。他方、合成樹脂は、当面の需給堅調にかかわらず、目先新鋭設備稼働を控えたメーカー間の販売競争激化から、弱含みとなった。また紙では、洋紙は季節需要の台頭からメーカー、代理店筋の売腰が強く、上質紙を中心に強含みを続けたが、板紙は需要の増加にかかわらず供給能力になおかなりの余裕があることから市況は保含いとどまった。砂糖は、自主減産の一方季節需要の増加から需給がやや改善をみているうえ、構造改善問題についての話し合いの進展、海外粗糖相場高などが好感されたこともあって、久方ぶりにかなりの上伸を示した。

(卸売物価——久方ぶりに下落)

3月の卸売物価は、前月比-0.2%と6ヵ月ぶりに反落を示した。これは、繊維(綿糸、生糸)、食料(日本酒、精製糖)、雑品目(骨材、畳表)などが上昇したものの、鉄鋼、非鉄が大幅に続落したほか、化学(油脂、ポリエチレン)、金属(くぎ)なども下落したためである。また、4月上旬も、鉄鋼、非鉄、食料などの下落を中心に、前旬比

-0.2%と軟化を続けた。

このように、卸売物価は最近やや落ち着きぎみとなっているが、41年度平均では非鉄、木材、鉄鋼、繊維などの値上がりが響いて前年度比+4.0%と、31年度(+6.3%)に次ぐ大幅上昇となった。

(消費者物価——続騰)

消費者物価(東京)は、2月+0.5%(除季節商品-0.1%)のあと、3月も、被服(衣料、身の回り品)の反騰、食料(くだもの、清酒)、住居(家賃、設備修繕材料)の値上がりを中心に、前月比+0.4%(除季節商品+0.3%)と続騰した。この結果、41年度平均では+4.7%(除季節商品+4.9%)の上昇と40年度の上昇幅(+6.8%、除季節商品+6.2%)をかなり下回った。

なお、本行小売物価(東京)も、3月は前月比+0.2%と続騰(除生鮮食品は+0.3%と反騰)し、41年度平均では前年度比+2.5%(除生鮮食品+2.0%)の上昇となった(40年度平均、+4.2%、除生鮮食品+3.7%)。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエイト	下降期 (ピーク 38/11 38/11 →40/7)	上昇期 (ボトム 40/7) 40/7 →42/3	最近の推移							
				42年			42年3月			42年4月	
				1月	2月	3月	上旬	中旬	下旬	上旬	
総平均	100.0	- 0.7	+ 6.7	+ 0.8	+ 0.1	- 0.2	+ 0.1	- 0.2	- 0.2	- 0.2	
食料品	16.4	- 0.4	+ 5.8	- 0.5	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.4	- 0.3	- 0.2	- 0.3	
繊維品	12.9	- 8.0	+ 11.0	+ 1.7	+ 0.2	+ 0.2	- 0.5	+ 0.4	- 0.4	- 0.1	
鉄鋼	10.2	- 3.4	+ 8.2	+ 4.0	- 0.5	- 1.6	- 0.2	- 0.3	- 0.3	- 1.1	
非鉄金属	4.5	+ 18.4	+ 16.5	- 0.2	- 0.5	- 3.2	- 0.9	- 0.9	- 2.6	- 0.8	
金属製品	3.5	+ 4.1	+ 6.0	+ 1.1	+ 0.3	- 0.2	- 0.2	- 0.1	+ 0.3	- 0.2	
機械器具	20.2	- 0.6	+ 0.8	保合	保合	+ 0.1	+ 0.1	保合	保合	+ 0.2	
石油・石炭	5.2	+ 1.0	- 2.3	保合	+ 0.2	+ 0.1	保合	保合	保合	- 0.1	
木材・同製品	6.1	- 2.7	+ 26.2	+ 3.1	+ 0.4	保合	+ 0.6	- 0.7	+ 0.3	- 0.1	
窯業製品	3.0	- 0.8	+ 5.6	+ 0.5	+ 0.4	+ 0.5	+ 0.4	保合	- 0.1	+ 0.4	
化学品	7.4	+ 1.9	- 3.0	+ 0.1	- 0.5	- 0.5	- 0.1	- 0.1	- 0.3	+ 0.3	
紙・パルプ	3.3	- 0.3	+ 3.6	+ 0.1	保合	+ 0.1	保合	+ 0.1	+ 0.1	保合	
雑品目	7.5	+ 1.1	+ 5.5	+ 1.4	+ 0.6	+ 0.6	+ 0.6	保合	保合	+ 0.2	
工業製品	79.5	- 1.4	+ 5.1	+ 0.8	- 0.1	- 0.2	保合	保合	- 0.2	- 0.1	
非工業製品	20.5	+ 1.5	+ 12.2	+ 1.4	+ 0.4	- 0.3	+ 0.2	- 0.5	- 0.3	- 0.2	
非鉄・食料を除く総平均	79.1	- 1.7	+ 6.2	+ 1.2	+ 0.1	- 0.1	保合	保合	- 0.1	- 0.1	

(注) 本行調べ、35年基準指数による。

(輸出入物価——輸出物価は続落、輸入物価も反落)

3月の本行輸出物価は、前月比-0.6%と続落した。繊維(綿糸、スフ糸)、窯業(セメント)が小幅続伸したものの、化学(世界的な増産を背景とした鯨油の英国向け安値成約)、食料(冷凍まぐろ、乾燥しいたけ)が大幅に下落したためである。一方、輸入物価は、前月比-0.5%と反落した。これは、金属(鉄くず)、木材が続伸したものの、繊維(原綿、原毛)、鉱物(銅鉱、鉄鉱石)、化学(牛脂)、雑品目(生ゴム)が値下がりしたためである。以上の結果、交易条件指数は、前月比-0.1%と小幅ながら引き続き悪化した。

なお、41年度平均では、輸出物価は食料、木材の値上がりを中心に+1.4%(40年度平均-0.7%)、輸入物価は銅鉱石・地金の値上がりを中心に+0.7%(40年度平均-1.0%)といずれも反騰し、その結果、交易条件指数は+0.6%(40年度平均

+0.3%)と引き続き改善した。

◇貿易収支は引き続き悪化の傾向

3月の国際収支は、貿易収支の黒字幅縮小を主因に経常収支が14百万ドルの赤字となった(前年同月、黒字78百万ドル)ため、総合収支では68百万ドルの赤字と再び相当の逆調となり、前年同月(黒字、5百万ドル)に比べかなり悪化した。すなわち、貿易収支黒字幅は、輸出の伸び悩みと輸入の根強い増加から135百万ドルと前年同月を60百万ドル方下回り、季節調整後でも、黒字幅はこのところ目立って縮小している。貿易外収支では、軍関係の受取が増加した反面、期末関係送金がかさんだため、1億ドルを越える赤字となり(前年同月、同99百万ドル)、移転収支の赤字幅も前年同月をかなり上回った。次に長期資本は、延払い信用供与が引き続き増加したほか、ガリオア・エロア借款の返済も進捗したが、民間の大口径インパクト・ローンの受入れがあったため、流出超幅は77百万ドルと前年同月(95百万ドル)を下回った。また、短期資本でも、海外金利の低下傾向を持映じて、BCユーザンスの利用が増加した

消費者・小売・輸出入物価の推移

(単位:%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移			最近 の前 年 同 月 比	
		40年度 平均	41年度 平均	42年				
				1月	2月	3月		
消 費 者 物 価 (東 京) (全 国) (口 5万 以上 の 都 市) 小 売 物 価 (東 京) 輸 出 入 物 価	総 合 ( 季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+6.8	+4.7	+1.5	+0.5	+0.4	+4.6
		91.4	+6.2	+4.9	+0.2	-0.1	+0.3	+3.6
	食 料 住 居 光 熱 被 服 雑 費	40.9	+8.1	+3.0	+3.7	+1.4	+0.3	+4.7
		10.7	+4.4	+5.7	+0.6	+0.3	+0.5	+5.2
		4.5	+0.4	0.0	-0.2	+0.1	-0.1	-0.6
		13.0	+3.8	+3.6	-0.2	-1.4	+1.1	+3.7
	31.0	+7.5	+7.9	保合	+0.2	+0.2		+5.4
	総 合 ( 季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+6.3	*+4.7	+1.1	+0.5		+4.2
		91.4	+6.1	*+4.9	+0.1	-0.1		+3.2
	総 合 ( 季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+7.4	*+4.7	+1.1	+0.5		+4.1
91.3		+7.0	*+4.8	保合	-0.2		+2.9	
総 平 均 ( 生 鮮 食 品 を 除 く)	100.0	+4.2	+2.5	+0.4	+0.2	+0.2	+2.9	
	94.3	+3.7	+2.0	+0.1	-0.2	+0.3	+1.6	
輸 出 入 物 価	輸 出		-0.7	+1.4	+0.7	-0.8	-0.6	+1.2
	輸 入		-1.0	+0.7	+0.1	+0.8	-0.5	-1.6
	交 易 条 件		+0.3	+0.6	+0.6	-1.6	-0.1	+2.9

(注) 1. 消費者物価(40年基準)は総理府調べ、小売物価(40年基準)は本行調べ、輸出入物価(35~37年基準)は本行調べ。  
2. \*印は41年4月~42年2月平均の前年同期比。

国 際 収 支

(単位:百万ドル)

	41年		42年	42年			前年 3月
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月	
経 常 収 支	159	167	△56	△189	35	△14	78
貿 易 収 支	230	257	50	△104	120	135	198
輸 出	833	921	742	561	790	877	822
輸 入	603	664	692	665	670	742	624
貿 易 外 収 支	△63	△74	△86	△74	△76	△107	△99
移 転 収 支	△8	△16	△20	△11	△9	△42	△21
長 期 資 本 収 支	△73	△106	△63	△69	△42	△77	△95
短 期 資 本 収 支(注1)	△4	15	30	25	14	51	0
誤 差 脱 漏	△5	△28	△6	3	7	△28	22
総 合 収 支	78	17	△95	△230	14	△68	5
金 融 勘 定(注2)	78	17	△95	△230	14	△68	5
外 貨 準 備 増 減	△20	10	1	△22	△2	27	0
そ の 他	98	7	△96	△208	16	△95	5

(注) 各期月平均。

1. 金融勘定に属するものを除く。
2. 金融勘定の△印は純資産の減少。



ため、51百万ドルの流入超と収支はかなり好転した(前年同月、収支トントン)。この間の金融勘定の動きをみると、為銀段階では、季節的事情もあり、輸出手形の買持ちが増加した反面、輸入の増大を映じて外銀借入れが増加したこと、海外金利の低下に伴う採算上の配慮もあって海外短資がかなり流入したことなどから、対外支払ポジションは大幅に悪化した。他方、外貨準備は27百万ドル増加した。

3月の輸出は、前年同月比+7%と小幅の伸びにとどまった。季節調整後の動きを3ヵ月移動平均でみると、12月+1%、1月-1%、2月-2%とこのところ減少傾向をたどっている。通関統計によって、品目別の動きをみると、民生用電機、自動車、光学機器などは好調を続けているが、反面、食料品、綿織物、化学製品、鉄鋼などは不勢裡に推移している。なお、船舶は、前年同月の水準がとくに高かった関係もあって、前年水準を下回った。地域別では、琉球、韓国など東南アジア諸国向けは順調ながら、米国向けは前年同月比+3%と依然停滞ぎみとなっている。3月の輸出信用状も前年同月比+6%と小幅の増加にとどまった。品目別にみると、肥料は中共向けの増加によりかなりの伸びを示したが、水産品、綿製品、鉄鋼などは引き続き前年の水準を下回った。国別には、とくに主力の米国向けが食料品、繊維製品、鉄鋼などの不振が響いて頭打ちとなっており、3月については前年水準をわずかながら下回った。このような状況から当面輸出の伸び悩み傾向が続くものとみられる。

3月の輸入は、前年同月比+19%と引き続きかなりの高水準で推移しており、季節調整後も、前月を更に上回った。通関統計によって品目別の動きをみると、鉄鋼原料、半製品、非鉄製品、木

## 輸出入関連諸指標

(単位・百万ドル)

	国際収支		通関		信用状			輸出	輸入
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	差	輸出承認	輸入承認
41年									
7~9月	833 (+13.7)	603 (+16.9)	841 (+13.1)	778 (+17.6)	683 (+14.1)	337 (+18.9)	346	887 (+13.4)	743 (+21.1)
10~12月	921 (+22.4)	664 (+24.7)	940 (+23.1)	852 (+25.3)	664 (+9.5)	397 (+21.6)	267	891 (+18.7)	842 (+27.2)
42年									
1~3月	742 (+7.6)	692 (+22.2)	760 (+8.8)	905 (+22.1)	664 (+4.7)	392 (+18.6)	272	855 (+14.2)	851 (+26.2)
42年									
1月	561 (+1.8)	665 (+26.9)	581 (+4.2)	859 (+28.9)	622 (+8.9)	340 (+17.3)	318	742 (+16.8)	779 (+29.1)
2ヶ月	790 (+13.2)	670 (+21.4)	805 (+14.2)	894 (+19.7)	598 (-0.7)	378 (+19.7)	280	847 (+12.8)	803 (+27.5)
3ヶ月	877 (+6.7)	742 (+18.9)	895 (+7.3)	961 (+18.6)	771 (+5.9)	458 (+18.6)	317	976 (+13.4)	969 (+22.9)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。各期月平均。

## 輸出入指標(季節調整済み)の推移

(単位・百万ドル)

	国際収支			通関		信用状			輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易	輸出	輸入	輸出	輸入	差	輸出承認	輸入承認
41年										
4~6月	777	594	183	787	762	656	342	314	828	702
7~9月	808	632	176	817	810	669	355	314	841	776
10~12月	851	670	181	868	864	679	381	298	885	817
42年										
1~3月	830	686	144	848	908	675	394	281	905	866
41年										
11月	852	684	168	870	873	679	388	291	923	792
12ヶ月	873	666	207	898	857	693	390	303	868	844
42年										
1ヶ月	846	683	163	863	911	687	378	309	903	818
2ヶ月	829	673	156	851	893	656	398	258	915	885
3ヶ月	815	701	114	828	919	683	404	279	896	896

(注) 季節調整はセンサス局法による。各期月平均。

材、石炭などの増加が目立っている。3月の輸入承認、輸入信用状は、前年同月比それぞれ+23%、+19%と依然として2割内外の高いテンポの増加が続いている。輸入承認によって品目別の動きをみると、金属原料の著増をはじめ、機械、木材などの増加が目立っている。こうした先行指標の動きに加え、メーカー輸入素原材料在庫率(季節調整済み)が2月はいくぶん上昇したとはいえ、なお低目の水準にあることなどから推して、当面、輸入は根強い増加を続けるものとみられる。

## 輸出信用状の内訳

(単位・百万ドル)

	41 年			42年			42 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月	1月	2月	3月
合 計	683 (+ 14)	664 (+ 10)	664 (+ 5)	622 (+ 9)	598 (- 1)	771 (+ 6)			
食 料 品	29 (- 6)	30 (+ 18)	26 (- 10)	27 (+ 35)	25 (- 6)	25 (- 35)			
水 産 品	21 (- 7)	21 (+ 19)	18 (- 12)	18 (+ 20)	17 (- 3)	18 (- 34)			
繊 維 製 品	130 (+ 11)	128 (+ 6)	117 (+ 4)	113 (+ 8)	104 (- 4)	134 (+ 7)			
綿 製 品	29 (- 4)	25 (- 4)	21 (- 20)	20 (- 11)	18 (- 35)	24 (- 12)			
化学製品	48 (+ 11)	48 (+ 15)	50 (+ 1)	43 (- 3)	44 (- 22)	64 (+ 30)			
肥 料	13 (+ 4)	9 (- 13)	12 (- 26)	5 (- 52)	10 (- 60)	20 (+ 64)			
金属製品	143 (+ 3)	134 (+ 2)	141 (- 2)	139 (+ 10)	121 (- 6)	163 (- 7)			
鉄 鋼	131 (+ 5)	125 (+ 8)	129 (- 2)	126 (+ 12)	110 (- 8)	150 (- 8)			
機 械	193 (+ 31)	188 (+ 16)	195 (+ 15)	182 (+ 13)	181 (+ 10)	223 (+ 23)			
船 舶	10 (+ 41)	6 (- 16)	9 (- 6)	10 (- 32)	4 (- 20)	13 (+ 51)			
自 動 車	36 (+ 16)	43 (+ 4)	51 (+ 17)	49 (+ 4)	47 (+ 26)	57 (+ 22)			
そ の 他	139 (+ 16)	137 (+ 9)	135 (+ 3)	119 (+ 3)	123 (+ 4)	162 (+ 2)			
北 米	283 (+ 20)	279 (+ 13)	280 (+ 1)	259 (+ 3)	255 (- 1)	326 (- 0)			
ア ジ ア	208 (+ 22)	196 (+ 10)	196 (+ 15)	188 (+ 27)	171 (- 4)	229 (+ 25)			
ヨ ー ロ ッ パ	69 (- 9)	67 (- 3)	75 (- 8)	79 (- 1)	66 (- 4)	80 (- 16)			
そ の 他	122 (+ 6)	122 (+ 9)	113 (+ 8)	97 (+ 5)	107 (+ 8)	136 (+ 11)			

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%).各期月平均。

## 輸入承認品目別内訳

(単位・百万ドル)

	41 年			42年			42 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月	1月	2月	3月
食 料 品	136 (+ 17)	147 (+ 10)	148 (+ 15)	145 (+ 25)	135 (+ 12)	163 (+ 9)			
原 燃 料	428 (+ 24)	476 (+ 25)	473 (+ 18)	423 (+ 20)	448 (+ 18)	550 (+ 17)			
羊 毛	33 (+ 27)	34 (- 8)	32 (- 7)	27 (- 9)	31 (- 9)	37 (- 2)			
綿 花	32 (+ 19)	30 (+ 1)	44 (+ 14)	39 (+ 13)	42 (+ 11)	50 (+ 19)			
鉄 鉱 石	42 (+ 16)	43 (+ 48)	45 (+ 25)	38 (+ 46)	40 (+ 16)	56 (+ 20)			
鉄 鋼 く ず	14 (+ 15)	23 (+ 212)	26 (+ 236)	21 (+ 243)	24 (+ 216)	34 (+ 247)			
非鉄 金属	22 (+ 75)	24 (+ 53)	22 (+ 38)	19 (+ 49)	22 (+ 36)	24 (+ 32)			
木 材	55 (+ 39)	61 (+ 44)	58 (+ 31)	49 (+ 16)	52 (+ 33)	71 (+ 43)			
石 炭	21 (+ 12)	23 (+ 37)	26 (+ 35)	23 (+ 24)	24 (+ 39)	30 (+ 42)			
石 油	92 (+ 12)	103 (+ 14)	109 (+ 10)	101 (+ 6)	99 (+ 11)	127 (+ 14)			
化学製品	43 (+ 16)	49 (+ 21)	50 (+ 25)	48 (+ 24)	45 (+ 12)	59 (+ 38)			
機 械	59 (+ 20)	71 (+ 37)	68 (+ 49)	61 (+ 29)	68 (+ 78)	75 (+ 46)			
鉄 鋼	16 (+ 52)	26 (+ 235)	31 (+ 22)	30 (+ 239)	33 (+ 330)	28 (+ 233)			
そ の 他	61 (+ 13)	74 (+ 59)	81 (+ 62)	74 (+ 75)	75 (+ 75)	95 (+ 45)			
合 計	743 (+ 21)	842 (+ 27)	851 (+ 26)	779 (+ 29)	803 (+ 28)	969 (+ 23)			

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%).各期月平均。